

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	健常例と寛骨臼形成不全例における脛骨回旋角の違い
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
【対象】 2007年10月1日から2013年12月31日までに当院および新潟臨港病院で行われた人工股関節全置換術症例（約200例）および2008年から2012年の間に新潟臨港病院で募集された健常ボランティア：100例	
【研究期間】 新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2028年3月31日まで	
③概要	
寛骨臼形成不全（DDH）例では大腿骨頸部前捻角が大きいことが知られています。これは大腿骨が果部に対して近位部が外旋していると言えます。私たちは先行研究でDDH例は大腿骨に対して脛骨が外旋しているにもかかわらず、健常例と同様に脛骨前後軸が骨盤正面と平行であることを報告しました。一方、DDH例は足部が内旋するいわゆる『うちわ歩行』が多いことが知られています。これらからDDH例の脛骨は健常例と比べて内旋していることが予想されますが、それらに関しては調査された報告はありません。 本研究の目的は健常例と当院で人工股関節全置換術が施行されたDDH例において脛骨回旋角の違いを調査することです。	
④申請番号	2025-0147
⑤研究の目的・意義	本研究の目的は健常例と当院で人工股関節全置換術が施行されたDDH例において脛骨回旋角の違いを調査することです。 使用する座標系はコンセンサスが得られているものであり、科学的合理性もあるものと思われます。またDDH例の脛骨回旋の特徴を知ることによって下肢全体のアライメントを考えるときのひとつの基準になることが期待できます。
⑥研究期間	新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2028年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	CT画像は健常ボランティアから得られたものおよび通常の術前計画に使用したものであり、本研究のために、追加する検査はなく、対象者に不利益が生じることはないと考えられます。 データは研究を担当する研究者および分担研究者以外の者に漏洩しないように、作業方法、作業場所、データ保管方法等を厳重に管理致します。個人情報に関しては特定の個人を識別することができない情報へ匿名化を行います。研究成果の公表に際しては、個人が特定されることのないように配慮致します。
⑧利用または提供する情報	年齢（満30歳以上）、性別、大腿骨前捻角：大腿骨頸部から大腿

の項目	骨頸部のなす角，脛骨－大腿骨回旋角：上顆軸と脛骨前後軸のなす角，脛骨回旋角：脛骨内外顆を結んだ線と足関節内外果を結んだ線のなす角
⑨利用の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄
⑪お問い合わせ先	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄 025-227-2272 lmainorio2001@med.niigata-u.ac.jp